

# 岩瀬郡地理唱歌

【復刻版】



栄町遺跡出土『石瀬』墨書土器(9世紀中頃)  
須賀川市指定文化財・当館蔵



# 岩瀬郡地理唱歌【復刻版】

一、  
ひら みよ あふくま  
開けし御代に逢隈の

ながれ  
流にそへる岩瀬郡  
いわせぐん

いわせくにつこ  
石背國造しろしたる

ふるなのこ なつ  
古名残りて懐かしや

二、  
ぐんないにちやうじふににそん  
郡内二町十二村

とち たみおほ  
土地またひらけ民多く

めいしよきうせき ぶつさん  
名所舊蹟(旧跡)物産の

み もの かずし  
見るべき者は數知れず



二代目須賀川橋(1892年建設)

県内初の西洋式木鉄混合トラス式橋

・会津出身建築技師江川三郎八設計

三、

すかがわまち  
須賀川町はその昔  
むかし

にかいどうし きよじやう  
二階堂氏の居城にて

しよかんがしよくわいしや  
今は諸官衙諸會社の

ところ  
處せきまで立ち並ぶ  
たなら

四、

ひび さか そのさま  
日々に榮ゆる其様は

しようてんしつびのき  
商店櫛比軒ならべ

ひ つ よる でんきとう  
日に次く夜の電氣燈

たばこ せいぞうな  
煙草の製造名もしるし



町ハ東西二十五町南北三十町、土地頗ル高燥ニシテ海拔八百六十七尺、白河ヨリ三百尺低ク郡山ヨリ百十尺高シ故ニ水利ニ乏シク古來數回ノ大火アリ、然レ共景勝ニ富ミ、現住戸數二千六百五十餘人口一萬五千七百餘アリ

須賀川全景

五、

岩瀬の森の茂る日に  
いわせ もり しげ ひ

ひとこゑ ほととぎす  
一聲くらき時鳥

月影に棹せし釈迦堂川  
つき さを しゃかどうがわ

岩瀬の渡し忍はるゝ  
いわせ わたしの

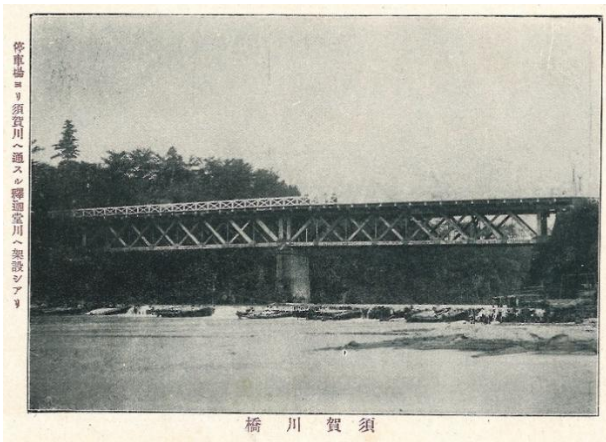
六、

手向くる香花絶間なき  
たむ かうかたえま

月窓開基の長録寺  
げっそうかいき ちようろくじ

木陰涼しき諏訪の杜  
こかげすず すわ もり

いざ立寄りて拜かまむ  
たちよ をが



橋川賀須



(宿中宇川賀須) 森ヶ瀬岩



(町訪諏町川賀須) 社神館炊神社郷



(上ノ岸川町川賀須) 寺祿長

七、

春は櫻花の旭岡  
はる さくらら あさひをか

花の富貴なる牡丹園  
はな ふき ぼたんえん

紅葉と月に名を得たる  
もみじ つき な え

愛宕の山と琵琶の池  
あたご やま びわ いけ

八、

寛政享和の頃とかよ  
くわんせいきやうわ ころ

銅版術を我國に  
どうはんじゆつ わがこく

傳へそめたる田善は  
つた でんぜん

此處方出でし人なるぞ  
ここよりい ひと



須賀川名所 柳沼牡丹園



須賀川ノ西南約七町ニアリ、明治三十三年頃開設セラレ、來羽益々擴張經營セラル。此池ハ公園ノ中央ニアリ。鯉魚ヲ放チ蓮菖蒲ヲ植フ、四方滿山櫻梅ヲ以テ掩ヘル、池西ノ高臺老松蒼蒼ノ岡ニ一祠アリ稻荷神社ト云フ、其西ニ廣大ナル運動場アリ

旭ヶ岡公園 (須賀川)

九、

いでや是より徒歩の道  
これ たち みち

西袋へと杖曳かむ  
にしぶくろ つゑひ

耕地整理につとめたる  
かうちせいり

功こそ見えて楽もしや  
かひ み たの

一〇、

御所宮山王遙拜し  
ごしよみやさんわうようはい

堀底袋田大桑原  
ほりそこふくろだ おおくわはら

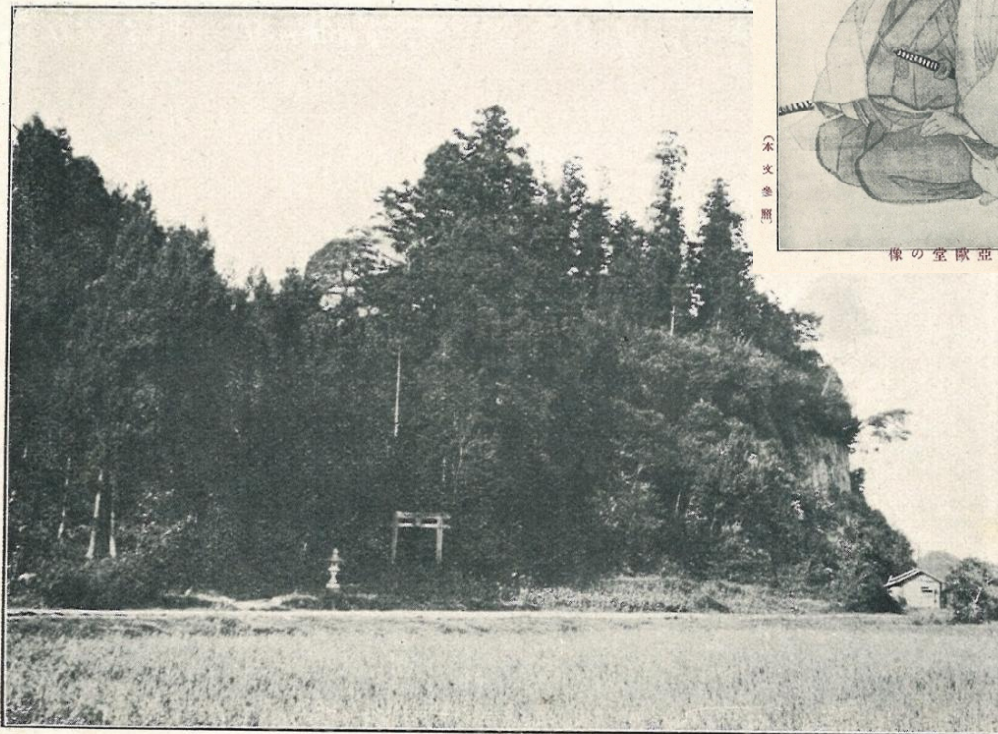
探りくくて越久と  
さが をつきゆふ

越せば程なく仁井田村  
こ ほど にいたむら



像の堂臥照

(本文参照)



山頂顯國魂命ヲ祀ル斷崖壁立數十仞脚底國道ト南北ニ併走シ阿  
逢隈川ハ洋々潺湲トシテ更ニ其脚下ヲ北流ス俯仰人ヲシテ心ヲ  
寒カラシメ山上ノ展望極メテ濶シ

(宿森字大村袋西) 宮 所 御

一、須賀川町より二里と半  
すかがわまち 二り はん

のうげふこと さかん  
農業殊に盛にて

むらにぎは たみ と  
村賑ひて民も富み

な お ほど めでた  
名に負ふ程こう目出度けれ

十二、桑田變して滄海の  
そうでんへん そうかい

ためしに漏れぬ板滑と  
ぬ いたなめ

いちや たて いま はた  
一夜の館は今は桑畑

たて をか な  
館ヶ岡とは名のみにて



(田井仁村田井仁) 園公館夜一

伊達政宗南征ノ際此地ニ館ヲ城キ、一夜ニシテ成ル。故ニ此地  
ヲ一夜館ト云フトシ、四十一年東宮殿下行啓紀念トシテ茲ニ公  
園ヲ新設セリ、老松天ニ聳ヘ、展望ニ適シ、金蔵川ノ水滑リ其  
麓ヲ東流ス、風景佳絶ナリ



(村田井仁) 池ト水疏代苗猪

故大久保利通伊藤博文兩公ノ繪畫ニヨリニ開通シタル猪苗代湖  
ノ安積疏水ヲ分岐シタルモノ、明治十五年ノ工事ナリ。灌漑反  
別仁井田二百五十丁少ニ及フ其餘澤畧ガテ數フベカラズ

一三、昔源義家公

むかしみなもとよしいへこう

はくさんじんしや くわんじやう  
白山神社に勸請の

や はた ほうなふ えん  
矢、幡、奉納の縁により

やさははただ な のこ  
矢澤畑田の名も残る

十四、石根の山の谷水を汲み

いはね やま みず く  
石根の山の谷水を汲み

くら いは まめつか  
鞍かけ岩や豆塚を

むかし かた とも  
古を語る友として

こ ゆ きたよこた  
はや越え行かん北横田



源義家征進軍賊地ニ入ルヤ濃霧山河ヲ覆シテ咫尺辨セズ退却  
ス賊兵急追フ此地ニ森カヤ皆化シテ加賀白山ノ賊ノリトシ  
テ之ヲ勸請セリト傳フ此山池ハ産ス郡内風指ノ巨池ナリ  
別四十町歩年々芦五十畝養魚置テ

(澤矢村江白) 池山白ト社神山白



昔源義家當國へ下向ノ時、馬テ下リ鞍ヲ卸シテ憩ヒシ所ナリト  
云フ。奇岩突兀青松ノ間ニ立チ、頗ル佳趣アリ

(田畑村江白) 山掛鞍

十五、野路のながめの面白く

おもしろ  
のぢ  
いつ いらかた  
何時しか入りし白方の

むら もりや いまいづみ  
村は守屋と今泉

はしらたうめたたき おと  
柱田梅田瀧の音

十六、石脊の山の峯高く

うめたかわ  
な  
名もかんばしき梅田川

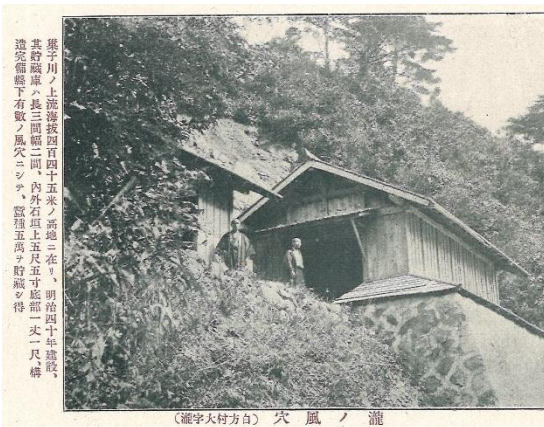
いはせくにつこ  
石脊國造しろしたる

むかし あと いまいづこ  
昔の跡は今何處



元禄元年須賀川城主二階堂輝行、其ノ城代ヲ置キシ所、征取  
同附近古戰場多シ。天正十六年伊達正宗ニ侵セラレ、後太閤秀  
吉ニ復取セラレ

(泉今字大村方白) 跡城泉今



瀧字川ノ上流橋四百五十五米ノ高處ニ在リ、明治四十年建設、  
其時橋幅ハ長二間程二間、内外石上五尺五寸並部一丈一尺、橋  
造完備橋下有數ノ風穴ニシテ、數百五萬ノ貯藏シ得

(瀧字大村方白) 穴風ノ瀧



石脊國造建備依米命ヲ祀ル。往古國造トシテ此地ニ來リ、草  
賊ヲ平ケ民ニ耕種ヲ教ヘ、圓晝梅ヲ種エテ季節ヲ知ラシメ給ヒ  
キ。梅田ノ字名是ヨリ起レリトシ、古來白方郷ノ惣社ニシテ境  
内廟遷ナリ

(泉今村方白) 社神方白



嶺山自然生ノ稚松ヲ以テ挽ハル。其空地ニハ密葉松樺杉等ヲ  
鏡種セリ。大字瀧及梅田ニ跨ガリ、其面積七十町歩ニ及ブ。數  
十年後成木ノ境額ノベキ也

(村方白) 林産財本基校學小等常尋方白

十七、日本武尊の銚つきー

たけるみこと ほと  
ほこつきじんしや まう  
杵衝神社に詣でけり

なつなほさむ しんぼく  
夏尚寒き神木は

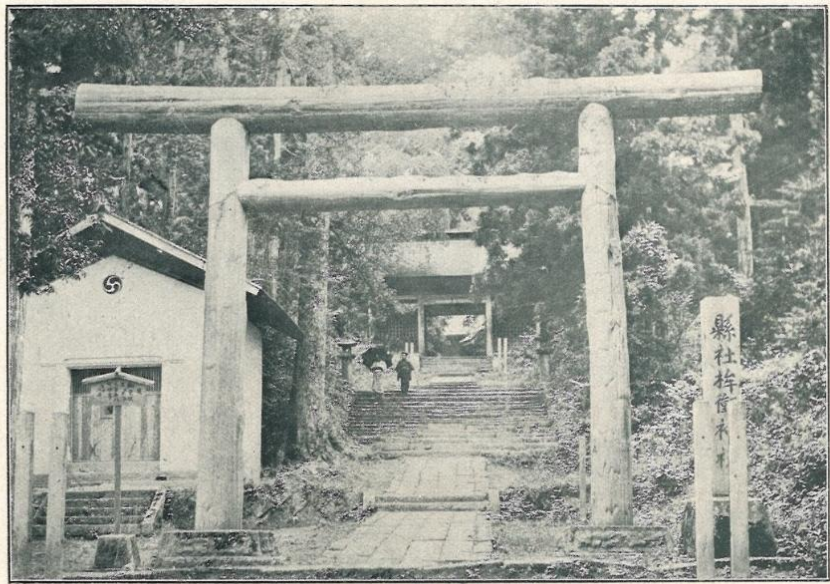
むかし おもかげ  
古なからの面影ぞ

十八、堀籠川を打渡り

ほりこめかは うちわた  
き さきやたのよそ み  
木の崎矢田野外に見て

よこた ぢんや たちよ  
横田の陣屋に立寄りて

よも けしき なが  
四方の景色を眺めなむ



延喜式内ノ古社ニシテ日本武尊武甕槌命ヲ祀ル。往古武尊東征ノ途次此地ヲ過リ終ノ八廣ヲテ衝立テ給ヒシヨリ杵衝ト稱スト云フ。老松古杉鬱蒼ノ裡社殿壯美ヲ極メ、江花川深々トシテ其北麓ヲ洗フ、寔ニ森嚴タル靈域タリ

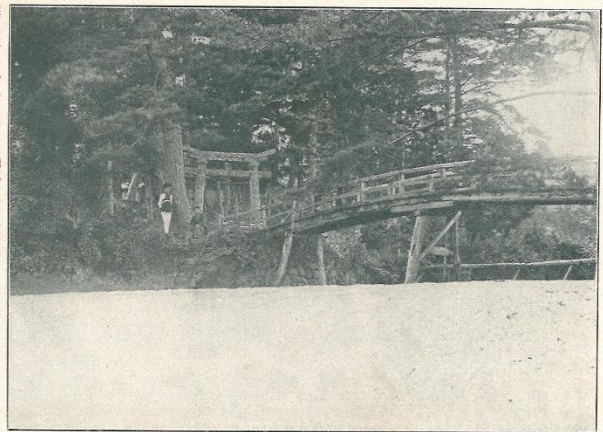
（舊杵字大村衝杵）社神衝杵社縣



（景杵）園 梨



横田陣屋「御殿桜」



盤筒女命ヲ祀ル。鳥居前ニ細流アリ、小橋ヲ架ス、水聲喚々樹間ニ響キテ自ラ神威ヲ加フ

（野田矢字大村衝杵）社神女盤

十九、小中を過ぎて志茂の里

ねんぶつしみつすく  
念佛清水掬ひてぞ

なが たびち つか  
長き旅路の疲れなば

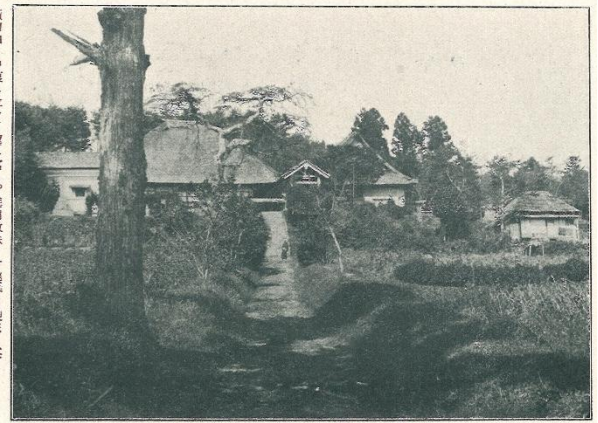
やす ながぬま  
しはし休めむ長沼に

二〇、長沼町はその昔

につくにうち きよぢやう ち  
新國氏の居城の地

まち きた じゃうし  
町の北なる城趾をば

うし じゃう よ  
牛が城と呼ぶとかや



(田橋村街禪) 寺 眞 護

横田山ノ中腹ニ依リテ築キ置ル。延應二年秋開創。チ餘タニ通ス。翌應二年秋開創。



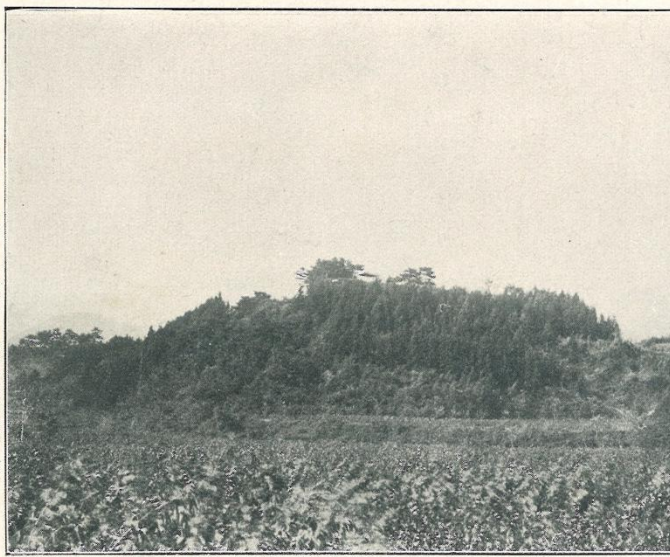
(街禪村街禪) 寺 樂 長

弘仁十二年創建。眞言宗新義派ニ属ス。近郷ニ十六ヶ寺ノ本山ナリ。幾百年ヲ経テモ舊態ノ老観音院ヲ觀ヒ、花形殿モ風景ニ富ム。



(黄志町沼長) 杉 藏 地

聖武帝ノ天平十三年僧行基此地ニ來リ一寺ヲ建立シテ記念トシテ此杉ヲ植エタリト傳フ爾來一千二百餘年其目通三十餘尺高百二十尺地方稀ナル古杉タリ



(町沼長) 跡 城 沼 長

日高見山トモ云フ今ハ公園ナリ文應年中長沼中納言隆時ノ築ク所廢石ヨリ成レル自然ノ城郭ニシテ頂上ニ松櫻枝ヲ交ヘ眺望佳絶ナリ

二一、明治維新のそれまでは  
めいぢゐしん

松平侯の陣屋あり  
まつたいらこう ぢんや

須賀川町より五里の西  
すかがわまち ごり にし

岩瀬西部の都邑なり  
いわせせいぶ とゆう

二三、白河よりは六里北  
しらかは ろくりきた

若松までは十と二里  
わかまつ じゅう にり

交路の便も備はりて  
かうる べん そな

郵便電信局もあり  
ゆうびんでんしんきょく



長沼町全景



岩瀬郡立院長出張所 (町長)



藤沼神社 (長沼町花江)



永泉寺 (長沼)

二三、沼の御前の六角堂

ぬま ごせん ろくかくどう

御田の扇と名も高し

おた おふぎ な たか

江花藤沼明神は

えはなふぢぬまみやうじん

木花開や姫とかや

このはなさく ひめ

二四、弘法大師御作なる

こうほふたいしごさく

勢至菩薩の勢至堂

せいしぼさつ せいしどう

駒の足音いや繁く

こま あしおと しげ

運ぶ薪炭名に聞ゆ

はこ しんたんな きこ



其創業極メテ古ク食器裝飾品土管等ヲ産ス廉價ニシテ而モ堅牢  
販路頗ル廣シ(本文参照)

(堂至勢町沼長) 所造製器陶



眞勝寺境内ニアリ、目通二十九尺、高百五十尺、亭々トシテ雲外ニ聳ユ。傳テ曰フ寶永年間眞勝寺境内  
勢至堂再建ノ時植付ケタリト、江花川ノ深流日夜コノ老杉ニ甘露ヲ灌イテ千古ノ秘史ヲ語ラシム

(堂至勢字大町沼長) 杉大堂至勢



元國有ナリシ明治三十七年中之ヲ勢至堂區有ニ引戻セリ面積  
壹千餘町歩杉植ヲ主トシ又關土ヲ産ス年々植樹ニ志ラズ辭々  
タル一大森林ヲ見ルコト近キニアラン

(堂至勢字大町沼長) 林有公堂至勢

二五、こゝより西に六里奥 にし ろくりおく

いわせこほり い わせこほり わ せんきやう せ 岩瀬郡の仙境の

ゆもと ゆ もと も むら む き き 湯本の村と聞きつれば

たび た び び 旅のついでに探らんか

二六、白河布引いや高く しらかわぬのびき たか

ふきく ふ きく き おろし お ろし ろ なつさむ な 吹來る風は夏寒し

わ わ で で をんせん を んせん ん おほ お 湧き出る温泉いや多し

やす や す す ゆあび ゆ あび あ しばしは休まん浴して



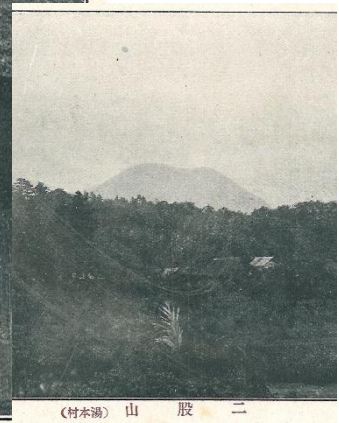
湯本村ニ股山麓ニアリ浴湯上下二  
泉質萬病ニヨロシ浴客一年千人ヲ  
超フ湯本ノ西南約一里其二股山頂  
ヨリハ全郡ヲ一眸ニ瞰下スベシ

(股二村本湯) 泉 温 股 二



温泉ヲ以テ名アリ浴湯四泉質諸病ニ效アリ浴客年々三千人ヲ上  
下ス須賀川ノ西方十一里深山四時ノ風景絶佳ニシテ推茸點等ノ  
美味アリ

(村本湯) 景 全 本 湯



(村本湯) 山 股 二



二九、ひろとがは 廣戸川の名を取りて

むら 村の名とせしひろとむら 廣戸村

とちたひら 土地平に亦またひろ 廣く

いひとよ 飯豊の名もつきくし

三十、しらこ 白子の龍塚探らんと

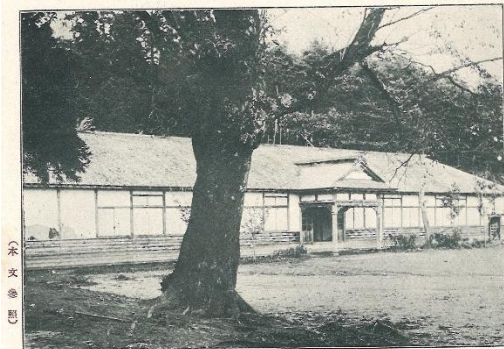
こころ 心は矢たけにはやれども

ひ 日もしいくら 椎倉に近づけは

いなた 稲田の村に急きけり



景 全 本 牧

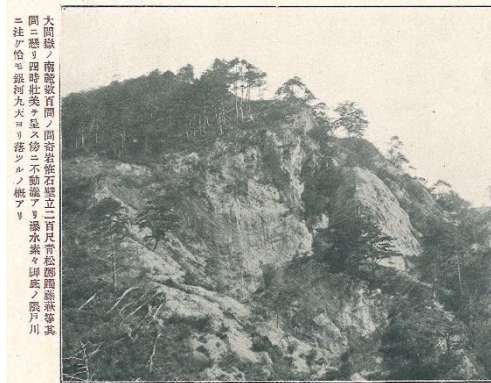


(廣戸村戸廣) 校學小等高子庚立私



(子白字大村戸廣) 社神宮坂

社地ハ磐根山觀ニアリ初メ大山祇命ヲ祀リシガ仁徳帝ノ朝ニ第  
五世石骨國ノ磐根主命ヲ其養ニ第六世國造第ニ磐根主命ガ合祀シテ  
坂宮ヲ立テ坂宮神社ト稱セシシテ北畠顯頼第ニ磐根主命ガ合祀シテ  
軍シタル兵士等ガ當所ニ居住シテ白子村ト號シテ天照大御神ヲモ  
合祀セリト傳フ



(戸廣字大村廣大) 岩ケ聖

三二、 稲田の村に一夜ねて

いなた むら ひとよ  
あす たず むらをと  
明日は尋ねん村老に

いなた ごしよ むかし  
稲田の御所はその昔

かまくらどの ぐうきよ ち  
鎌倉殿の寓居の地

三三、 泉田保土原 岩淵と

いずみだほどはら いわぶち  
めいしよこせき おお  
名所古蹟は多けれど

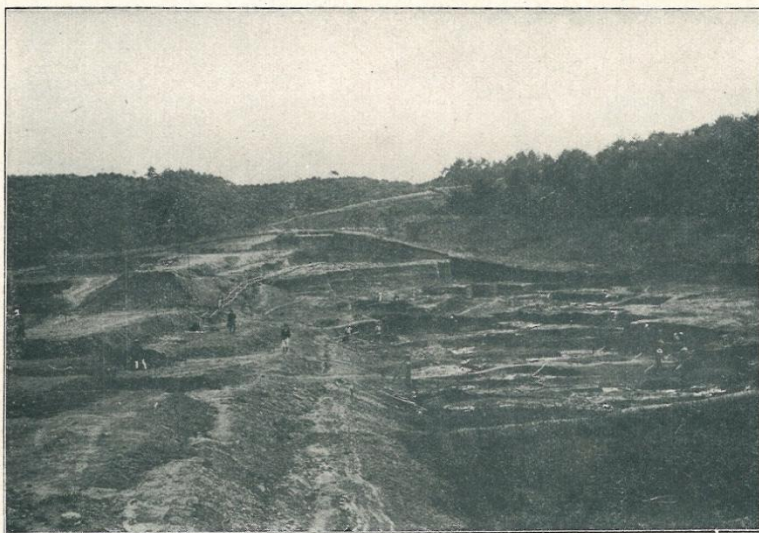
まつつかとしよくわんた  
松塚図書館訪はんとて

なごり わか  
名残とよめて別れたり



和田胤長が瀆セラレテ奥州岩瀬郡和田村ニアリ、偶々建保二年春三月和田ノ一族亂テ起セシカバ、鎌倉ヨリ討手ヲ向ケラレ、胤長ハ遁レテ此地ニ至リ自盡セリ。里人爲メニコノ墓碑ヲ建テテ用スト傳フ(本文参照)

(田稻字大村田稻) 佛 太 平



目下工事中、堤壑長僅ニ三十間チ、イテ水ヲ溜スレバ以テ二十五町歩百日ノ灌溉ニ堪フヘシ。乃チ溜池ト共ニ水田拾四町歩ノ耕地整理ヲ施行セントスル計畫アリ

(塚松村田倉) 造 築 池 溜 塚 松

三三、 並木の松の陰青く  
なみき まつ かげあを

千代の面影鏡石  
ちよ おもかげかゝみいし

化粧が原と鏡沼  
けしやう はら かがみぬま

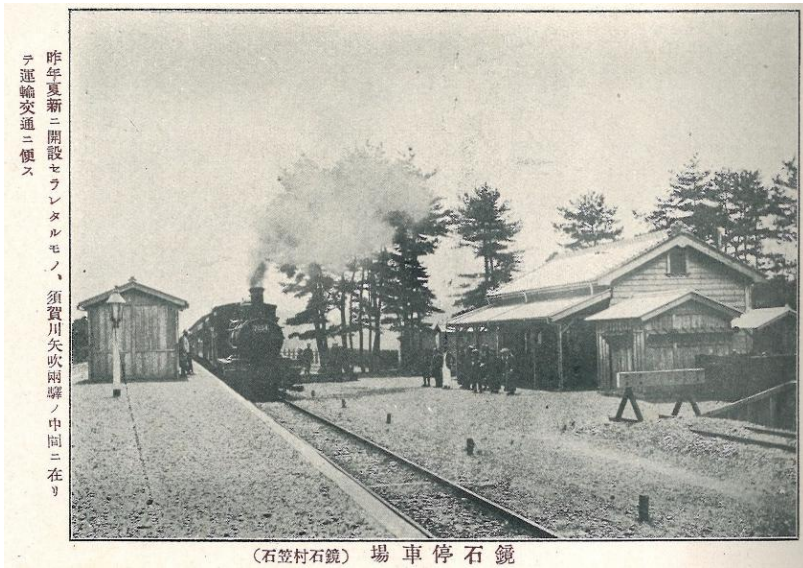
名をばとゝめし久來石  
な きゆふらへいし

三四、 道の傍なる笠石と  
みち はた かさいし

順宜牧場 鳥見山  
じゆんぎぼくじやう とりみやま

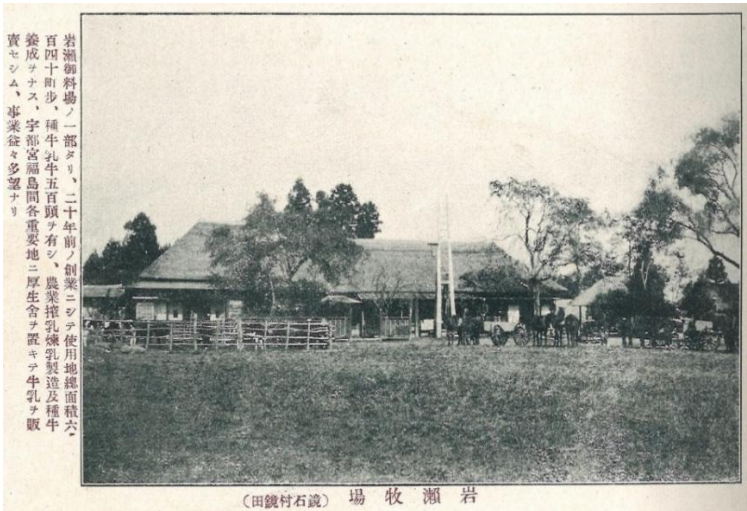
早や晝時に成田れば  
は ひるとき なりた

乙字瀧へと急くなり  
おつぢたき いそ



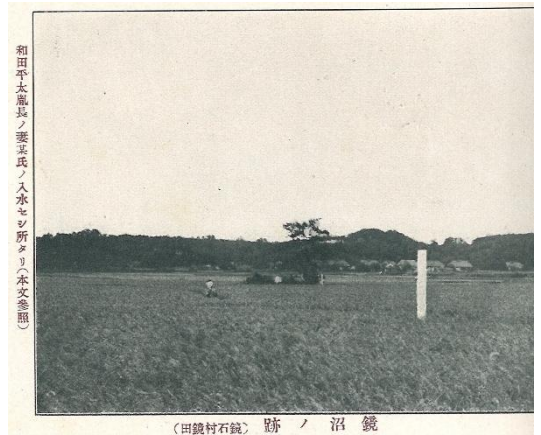
昨年夏新ニ開設セラレタルモノ、須賀川矢吹兩驛ノ中間ニ在リ  
 テ運輸交通ニ便ス

(石笠村石鏡) 場車停石鏡



岩瀬御牧場ノ一部タリ、二十年前ノ創業ニシテ使用地總面積六  
 百四十町歩、種牛乳牛五百頭ヲ有シ、農業搾乳煉乳製造及種牛  
 養成ヲナス、宇都宮福島間各重要地ニ厚生舎ヲ置キテ牛乳ヲ販  
 賣セシム、事業益々多蒙ナリ

(田鏡村石鏡) 場牧瀬岩



和田平太監長ノ妻平氏ノ入承セシ所タリ(本文参照)

(田鏡村石鏡) 跡ノ沼鏡

三五、

音に名高き乙字瀧

おと なたか おつちたき  
しきを きよう  
四季折りくくに興ふかし

なか ふち あゆ ます  
中にも藤花と鮎と鱒

そのなしほふ ひじ  
其名四方に響きけり

三六、

前田川なる発電所

まいたかわ はつでんしよ  
つで えぞあなたづ み  
序に夷穴尋ね見て

でんけうたいし ぎよさく  
傳教太師の御作との

わた だいぶつおか  
和田の大佛拜まんか



(川田前村田濱) 瀧 字 乙

阿武隈川ノ長流コノ一  
大飛瀑チナス。高二十尺幅二百間、形乙  
字ニ似ルヲ以テ名ケラル水音輕響トナリ  
虹トナリ能ク人心ヲ  
洗フ。左岸巖上ノ松、花月雪紅葉ト相映シ  
チ現ス。附近ニ須賀川電氣株式会社  
発電所並濱田村疎水渠ノ分水  
水壑アリ



(川田前字大村田濱) 佛 大

弘法大師東國巡錫ノ時之ヲ安置セラルト傳フ阿武隈川ノ左岸ニ  
アリ佛前老杉ノ下古井アリ人其深サヲ知ラズ蓋シ奥跡ナル史跡  
タラン

三七、濱田村の名産は

はまたむら めいさん

はた さくもつぶだう  
畑つ作物葡萄など

いざ珍しき品買ひて

たび かえ っ と  
旅の帰りの土産にせむ

岩瀬郡地理唱歌【復刻版】 A4判 全24頁

本誌は、須賀川市の郷土史家・永山祐三氏が所蔵(写)していたもの(明治43年2月23日・須賀川町開駿堂発行)を基に文字を入力し、『福島縣岩瀬郡案内』(大正元年11月7日・福島縣岩瀬郡協賛会発行・開駿堂印刷)掲載の写真等を差込み作成しました。ふりがな等原文そのままに標記してあります。岩瀬名所手引草の表記(一、岩瀬郡名の由来 二、名所旧跡)は省略。

《発行》

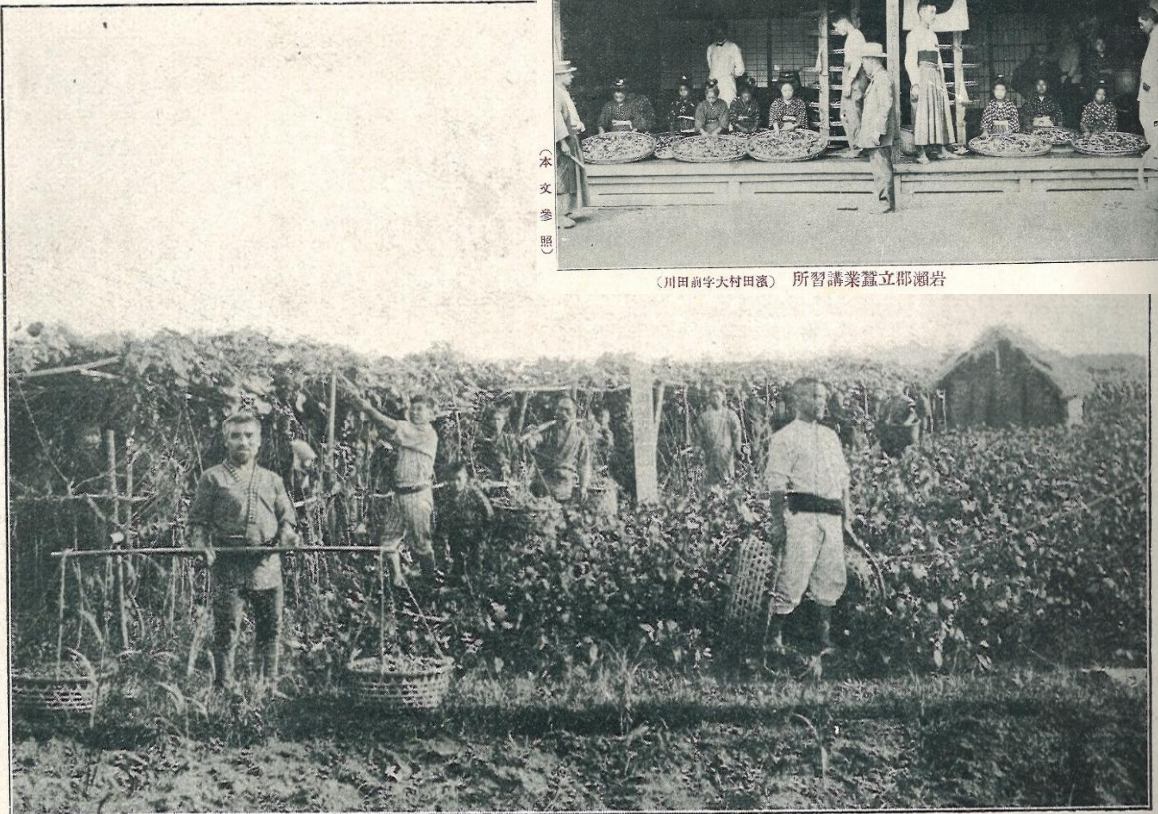
制作年月日 2026年2月27日

発行所 福島県須賀川市立博物館

発行・編集 館長 大和田 守



(川田前字大村田瀨) 所習講業蠶立郡瀬岩



(尾瀨字大村田瀨) 園 萄 葡

濱田村ノ土壤由來葡萄ニ適ス近年著シク之ガ栽培ヲ擴張シ其反別十町歩其産額七萬貫ニ達ス別ニ東北葡萄酒會社アリテ是ガ醸造ニ當ル







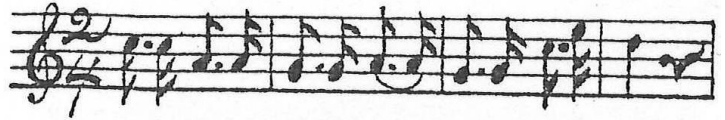
作 者 林 甚 太 郎  
曲 作 三 澤 千 里



# 福 島 縣 岩瀬郡地理唱歌

長ハ調四分ノニ拍子

三澤千里作曲



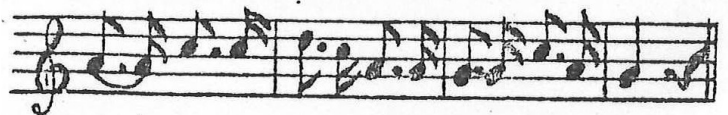
一トネケシミヨニアフクマノ  
ニグンナイニチヨーダニソソ



ナガレニソヘルーイハセゲン  
トチマタヒラケータオホク



イーハセクニツコシルシタル  
メイーショキュウセキブツサンノ



フルナノコリテナヅカシヤ  
ミルベキモ一ノハカズシズ

あ と が き

地理教育唱歌は、全国的に明治20年代にはじまり、30年代に鉄道唱歌等と共に大ブームとなった。40年代にブームが再来し、地方の郷土唱歌である福島縣地理唱歌や岩瀬郡地理唱歌等も明治の終わりに製作された。

唱歌製作の目的は、学校教育において郷土に関わる地理や偉人・歴史の知識を端的に教え込むことであった。その最たる方法が楽しく空き時間に一人でも口ずさめる唱歌形式であったのだろう。現在においては、自治体郷土唱歌や校歌といったところだろうか。

写しの『岩瀬郡地理唱歌』の表紙には、「運動會賞」の押印があり広く普及させたかった思いが窺える。

須賀川市立博物館長 大和田 守

『岩瀬郡地理唱歌』

定価 金五銭

明治43年2月23日 須賀川開駁堂 発行

作歌者 林 甚太郎 作曲者 三澤千里

発行者 橋本太平 印刷者 橋本源太郎

印刷所 開駁堂活版部 販売所 開駁堂書籍部

(須賀川町西六丁目13番地)

写し B5判 全21頁(内本文18頁)